

ギター・ベース機材申告シート

セット図に添える1枚（記入用）

ギター・ベースが伝えるのは「借りるか、持ち込むか」。

これに電源の口数とDIの本数を足せば足ります

バンド名（出演名義）	出演日・会場・イベント名	代表者名・連絡先（電話/メール）	編成（人数・パート）
------------	--------------	------------------	------------

① アンプ（会場のものを使うのか、持ち込むのか）

パート	担当者名	使うアンプ（会場の機種名）	持込の種別（①～⑤）	Ω・電源・DI	備考（要望）
Gt 1					
Gt 2					
Ba					

② 配置図（上手・下手は客席から見た向き）

奥（バックライン）

下手（客席から見て左）

上手（客席から見て右）

↓ 客席側

set-zu.jp

記号の目安： □ 四角＝アンプ・キーボード・DI ○ 丸＝ドラム ⊕ マイク（Vo/Cho） ▤ 台形＝返し（モニター）

色分け・「持込」「会場」の注記は自由

③ 足元の電源とエフェクターボード

必要な電源の口数と位置 足元に何口。下手／上手も書く	パワーサプライの容量と合計消費電流 合計は容量の3/4までに収める	電源タップ（持参の有無・長さ） 口数と位置が非公開の会場もある
-------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------

④ 回線・ワイヤレス・返し

DI・回線（本数とステレオ／モノ） 会場のDIは5～6本のことがある	ワイヤレス（帯域・本数） B帯は常設と被ることがある	返し（モニター）の希望 アンプを使わない人はここが中音の全部
---------------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------

ギター・ベース機材申告シート

セット図に添える1枚（記入例）

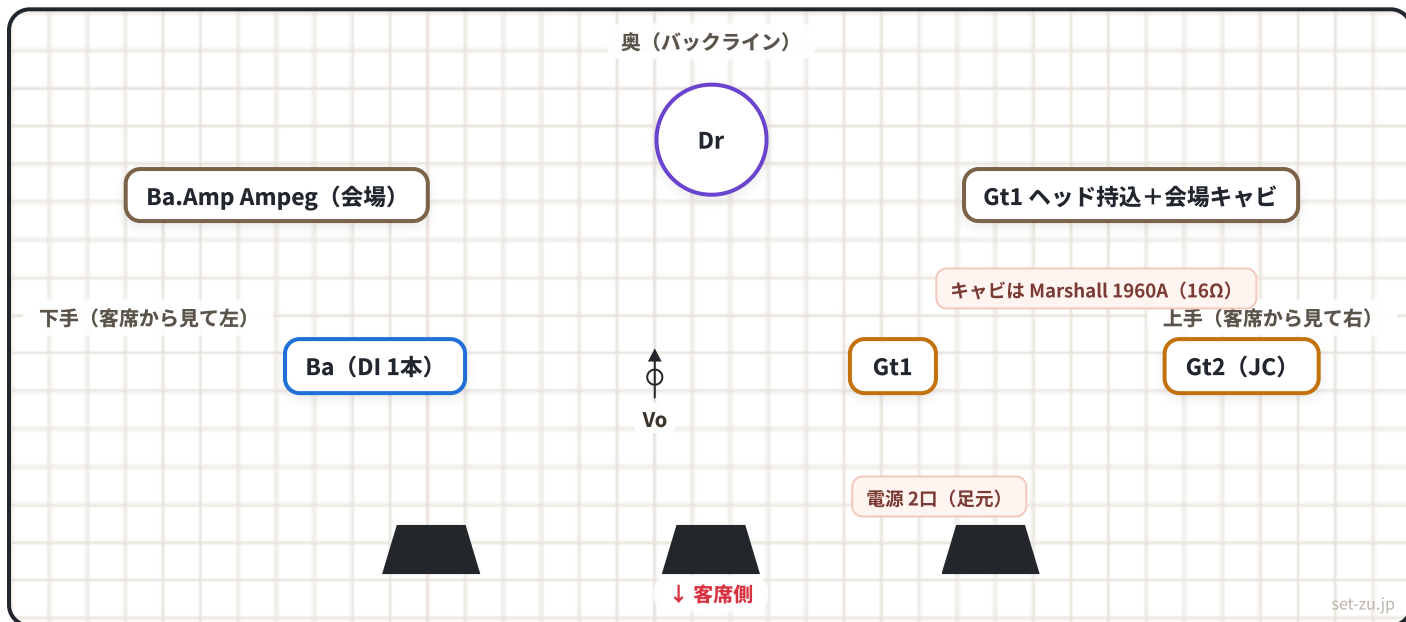
記入例：5人編成（Vo/Gt×2/Ba/Dr）
Gt1=ヘッドのみ持込・Gt2=会場のJC
Ba=会場アンプ+会場DI

バンド名（出演名義） ユウグレ・ハイウェイ	出演日・会場・イベント名 2026年11月1日（日）／下北沢SOUND BOX	代表者名・連絡先（電話/メール） 田中（090-0000-0000）	編成（人数・パート） 5人 （Vo/Gt2/Ba/Dr）
---------------------------------	---	--	--

① アンプ（会場のものを使うのか、持ち込むのか）

パート	担当者名	使うアンプ（会場の機種名）	持込の種別（①～⑤）	Ω・電源・DI	備考（要望）
Gt 1	佐藤	キャビのみ会場（Marshall 1960A）	③ ヘッドのみ持込	16Ω／電源1口	JC-120は使いません（置いたままで可）
Gt 2	鈴木	JC-120（会場・上手）	① 持ち込まない	電源1口（ボード）	空間系がデジタル。合計約420mA
Ba	田中	Ampeg SVT-3PRO+810E（会場）	① 持ち込まない	DI 1本お借りします	プリアンプの持込はありません

② 配置図（上手・下手は客席から見た向き）



記号の目安： □ 四角=アンプ・キーボード・DI ○ 丸=ドラム ⊕ マイク（Vo/Cho） ▒ 台形=返し（モニター）

色分け・持込「会場」の注記は自由

③ 足元の電源とエフェクターボード

必要な電源の口数と位置 足元に2口（下手1・上手1） 足元に何口。下手／上手も書く	パワーサプライの容量と合計消費電流 サプライ1,000mA／合計約420mA 合計は容量の3/4までに収める	電源タップ（持参の有無・長さ） 3m×4口を各自持参します 口数と位置が非公開の会場もある
---	--	---

④ 回線・ワイヤレス・返し

DI・回線（本数とステレオ／モノ） Ba：会場DI 1本（モノ）／Gtは回線なし 会場のDIは5～6本のことがある	ワイヤレス（帯域・本数） Gt1：B帯1本持込（被りをご確認ください） B帯は常設と被ることがある	返し（モニター）の希望 下手=Vo多め／上手=Gt1とVo／Dr=Ba多め アンプを使わない人はここが中音の全部
---	---	--

アンプ早見表

常設機種・持込5パターン・備考の文例

ギターは**JC-120**、ベースは**Ampeg** か **Hartke**が
ほぼ共通です。「会場のもの」ではなく
機種名で書くのが転換の早道

① ライブハウスに置いてあるアンプ（実在の機材リストより）

会場（機材リストより）	ギターアンプ	ベースアンプ
新宿SAMURAI	JC-120／Fender '65 Twin Reverb／Marshall JCM900	Ampeg SVT-3PRO＋SVT-810E
新宿21世紀	JC-120／Peavey Bandit 112／Fender Twin Reverb	Hartke TX300（ヘッド）
GROWLY（京都）	JC-120×2／Marshall JCM2000＋1960A・MX412A	Hartke HA3500＋Ampeg SVT-810E
LiveStage Ark（岡山）	Marshall JCM2000／Orange Rockerverb 100 MkII／JC-120	Markbass Little Mark Tube 800＋Hartkeキャビ

ギターは **JC-120**、ベースは **Ampeg** か **Hartke** がほぼ共通です。JC-120 が2台ある会場もあるので、「**会場のアンプを使う**」ではなく**機種名で書く**と転換で迷われません。

② 持ち込みの5パターンと図への書き方

持込のパターン	図・備考への書き方（そのまま使える）	コツ	要確認
① 持ち込まない（会場のアンプ）	Gt.Amp：JC-120（会場）	機種名まで書く。同じ機種が2台ある会場では「上手のJC」まで書ければ完璧	なし
② コンボを丸ごと持ち込む	Gt.Amp：持込（コンボ・AC100V 1口お借りします）	図にアンプの四角を描き、 電源の口数 を書き添える	電源1口
③ ヘッドだけ持ち込む（キャビは会場）	Gt：ヘッドのみ持込。キャビは会場の Marshall 1960A（16Ω）をお借りします	Ω（インピーダンス）の一致が必須 。合わないと言音が出ない・壊れる	Ωの一致／事前連絡
④ ヘッド＋キャビを持ち込む	Gt：ヘッド＋4×12キャビ 持込（台車で搬入・設置3分）	搬入経路と転換時間に影響する。置き場所も先に相談する	搬入経路／転換時間
⑤ アンプを使わない（ライン出力）	Gt：ライン出力（HX Stomp）→ XLR 2本・ステレオ。返しはモニターから	アンプの四角を描かない。代わりに 回線の本数とステレオ／モノ を書く	回線数／返しの作り方

いちばん揉めるのは③です。キャビはΩが合わなければ使えません。ベースの Ampeg SVT-810E は **4Ω**、ギターの Marshall キャビは **16Ω** が一般的なので、ヘッドの対応Ωを確認して図に書き、**当日ではなく事前に**ひとこと確認します。

③ 備考欄の文例（コピーして使えます）

こういうとき	備考欄にこう書く
全部会場のものを使う	Gt・Baともに会場のアンプをお借りします（Gt：JC-120／Ba：Ampeg）
ギターがコンボ持込	Gt：アンプ持込（コンボ1台）。 電源1口 お借りします。JCは使いません
ヘッドのみ持込	Gt：ヘッドのみ持込。 キャビは会場の Marshall（16Ω） をお借りしたいです。難しければJC-120で対応します
ベースはDIのみ	Ba：アンプは会場のものを使用。 DIは会場のものを1本 お借りします（持込なし）
ベースがプリアンプ持込	Ba：プリアンプ持込（XLR出力）。 DIは不要 です。返しはベース多めをお願いします
ライン出力でアンプなし	Gt：アンプを使わず ライン出力（ステレオ・XLR2本） 。中音は返しから。 電源1口 お借りします
ボードの電源が2口必要	Gt：足元に 電源2口 （パワーサプライ＋空間系）。 タップは持参 します
ワイヤレスを使う	Gt：ワイヤレス持込（B帯）。会場の常設ワイヤレスと 周波数が被らないか 事前にご確認ください

電源・回線チェックリスト

ボードの電源／DI／ワイヤレス／提出前13項目 **書き忘れが最も多い3つです。**
1行ずつ埋めれば当日揉めません

① エフェクターの消費電流とパワーサプライの容量

ペダルの種類	消費電流	目安
アナログの歪み (OD・DS)	4~20mA	5台つないでも合計100mAに届かない
アナログの空間系・モジュレーション	20~50mA	コーラス・フェイザー・アナログディレイ
デジタルのディレイ／リバーブ	50~60mA	1台でアナログ歪み3~10台ぶん
デジタルのマルチ・大物ペダル	~500mA	1台で500mA必要なものもある

パワーサプライは容量の3/4までに収めるのが目安です（ギリギリまで使うと動作が不安定になる）。デジタルを中心に組むなら**合計1000mA以上のモデル**を選びます。

ステージの電源の口数と位置は**公開していない会場もあります**。電源タップは自分で持参するのが前提で、セット図には必要な口数だけ書きます（「足元に1口」で足ります）。

② DIは何本必要か

何をにつなぐか	DI	セット図への書き方
ベース（アンプから）	1本	会場のDIを借りるのが基本。セット図には「DI 1本」でよい
ベース（ブリアンプ持込・XLR出力）	0本	DIは不要。持込機材の出力がXLRなら卓へ直接入る
キーボード・同期（ステレオ）	2本	1台でDIを2本使う。モノカステレオかを必ず書く
ライン出力のギター（ステレオ）	2本	アンプを使わない編成はここでDIか回線を2本食う

会場のDIは**無限にはありません**。GROWLY（京都）の機材リストは**BOSS DI-1×5台+RADIAL PRO D2×1台=計6本**。ベース1本+キーボードのステレオ2本+同期2本で、もう5本です。**ステレオ／モノの明記**だけで本数の読み違いが消えます。

③ ワイヤレスを持ち込むとき

項目	内容	現場での扱い
帯域	B帯=806~810MHz	特定小電力。免許も運用調整も不要で誰でも使える
混雑	被ると音切れ・ノイズ	同じ周波数が重なると音が切れる。ハコの常設と当たることがある
申告	セット図の備考に1行	「ワイヤレス持込（B帯）。常設と被らないかご確認ください」
保険	有線ケーブルも持参	当日に被ったら有線に戻すのがいちばん速い

④ 提出前チェック（13項目）

アンプ

- ☐ 会場のアンプを機種名で書いた
JC-120/Ampegなど。「会場のもの」だけでは足りない
- ☐ 持込は①~⑤のどれか書いた
コンボ／ヘッドのみ／ヘッド+キャビ／ライン出力
- ☐ ヘッドのみ持込ならΩを書いた
Ampeg 810=4Ω・Marshall キャビ=16Ω
- ☐ アンプの置き位置を図に描いた
返すとぶつからない位置か
- ☐ 会場のアンプを「使わない」ことも書いた
置いたままでもいいか、どかすかが決まる

電源・ボード

- ☐ 必要な電源の口数を書いた
「足元に1口」で足りる。位置も書ければ◎
- ☐ 電源タップを持参する
口数と位置は非公開の会場もある
- ☐ ペダルの合計消費電流を確認した
サプライ容量の3/4までに収める
- ☐ ACアダプターを全部カバンに入れた
忘れると音が出ない機材の第1位

回線・ワイヤレス

- ☐ ベースのDIが何本必要か書いた
会場のDIは5~6本しかないことがある
- ☐ ステレオかモノかを書いた
ライン出力・キーボード・同期はここで差が出る
- ☐ ワイヤレスの持込を1行で申告した
B帯は混雑しやすい。常設との被りを事前確認
- ☐ 返し（モニター）の希望を書いた
アンプを使わない人はここが中音の全部

迷ったら**「借りるのか、持ち込むのか」だけ先に確定**させてください。そこが決まっていれば、残りは当日その場で間に合います。

ファイル名の型

バンド名_機材申告_2026-11-01.pdf

セット図と同じ日付・同じ命名で揃えると、会場側のフォルダで迷子になりません。

セット図くんで作るなら

記号を並べて備考に**電源の口数とDIの本数**を書くだけ。PDFと共有URLでそのまま提出できます（set-zu.jp/app/・登録不要）